

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本研究科が目指す教育目標、求める院生像を2010年度中に検討し、明確にする。	→大学院の教育目標(ミッション)の具体的な明示の有無。	B	B	A	A	
2. 現在の「アカデミック・コース」と「プロフェッショナル・コース」の2コース制のあり方を2010年度中に見直す。	→2コース制の見直しの有無。	A	A	A	A	
3. 本研究科の中での英語履修コース(国際開発戦略コース)の位置づけと教育目標を2010年度中に検討し、明確にする。	→英語履修コースの教育目標の明示化とカリキュラムの見直しの有無。	A	A	A	A	
4. 博士前期課程と博士後期課程がそれぞれ目指す教育目標を2010年度中に検討し、明確にする。	→前期課程と後期課程それぞれの教育目標の明示化と、教育内容への反映の有無。	C	C	A	A	
5. 文科系・理科系という学際的な本研究科の特徴、総合政策的な教育・研究方法の意味を2010年度中に検討し、次項(6.2)で述べる2011年度からの教育・カリキュラム体系の再編成に反映させる。	→学際性を活かした教育スタイルの、カリキュラムや教育内容への反映の有無。	A	A	A	A	
					☆	

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度秋に策定・公表したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを具体的な研究科の教育目標として実施している。大学院履修要項であるStudy Informataionにも明記している。
目標2	2011年度、2コース制を廃止し修士論文を必修とする課程に1本化したが、マスターセミナーの充実とともにリサーチ・フェアおよびリサーチ・コンソーシアムにおける研究発表の義務化など、修士論文作成に向けたきめ細かなプロセスを実施している。
目標3	すでに英語コースを開設済みである。履修者は2012年度はいなかった。
目標4	2011年度秋に博士前期課程、博士後期課程それぞれについてディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを策定・公表した。
目標5	2010年度に新カリキュラムを策定し、2011年度から新カリキュラムによる教育が始まった。2012年度は新カリキュラムによる最初の博士前期課程修了者を輩出した。現在、領域ごとの科目数や開講形態などについて検討を開始している。
備考	